

本時案 例（割合の単元末を想定）

本時の目標

日常生活の事象にみられる百分率の増量の場合において、その場面を関係図や数直線などのさまざまな数学的な表現に表すことで、数量の関係を考えることができる。

学習活動	教師の指導・支援	評価基準及び 評価方法
1 本時の問題を知る	- 既習の問題を全員で解くよう伝える。 【既習の問題】 あさひさんの家では、一週間でハンドソープ全体の 10%の量を使います。 ハンドソープの容器には、全部で 800mL 入ります。 一週間で使用するハンドソープの量は何 mL ですか。 - 問題文と絵、図、式等を関連付け、「10%」の意味について、全体で確認する。その際、どの数量を「1」として見たかを問う。 - 本時の問題を読む。 【本時の問題】 あさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。 広告には、つめかえ用のハンドソープが 10%増量と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は 800mL です。 増量後のハンドソープの量は何 mL ですか。 - 既習の問題と同様に、どの数量を「1」として見たかを問い、既習の問題も本時の問題も「800」を「1」として見たことを確認する。 - その後、増量後のハンドソープの量が「80mL」になるのではないかと問い、「10%」と「10%増量」に違いがあることに気づき、本時の課題を捉えることができるようにする。	
めあて 「10%」と「10%増量」の意味のちがいについて考え、説明しよう。		
2 自分の考えをもつ	- 増量後のハンドソープの量を絵や図、式等を用いて求めるよう伝える。 - ヒントカードや図の書き方の説明動画等を準備しておき、必要に応じて活用できるようにする。	

3 話し合う	・まず、増量後のハンドソープの量をまず問う。 ・次に、どのような式を用いたかを問う。 ・図等を用いて立式の根拠を問う。 ・児童の説明をもとに、問題文と図、式等を関連付け、「10%増量」は増量後のハンドソープの量が増量前のハンドソープの量の 1.1 倍 (110%) にあたることを板書する。 ・「10%」と「10%増量」の違いをペアで説明し合うよう伝える。	
まとめ 「10%」はもとにする量の 0.1 倍、「10%増量」はもとにする量の 1.1 倍にあたる。		
4 練習問題に取り組む	・共通の類題を解くように伝える。あわせて、共通の問題を解くことができた児童は、教科書の巻末の類題や教師が用意したさらに難易度の高い類題に取り組むことを伝える。 【共通の類題】 50g 入りのお菓子が 25% 増量して売られるそうです。お菓子の量は何 g になりますか。	
5 振り返る	・本時の学習内容と学習方法について、スプレッドシートに振り返りを入力する。 (学習内容の振り返り例) ・「10%増量は 0.1 倍ではなく、もとの 1 と合わせて 1.1 倍として計算できることに驚いた」 ・「問題と図から 10%増量した量は何倍になるかを考えることが大切だった。」など (学習方法の振り返り例) ・「言葉だけだと迷うけれど、数直線図の 1 より右側を指差すことで、自信を持って説明できた」 ・「〇〇さんが、図を指さしながら説明してくれたので、「10%増量」が 1.1 倍にあたることが分かった。次は、自分も指さしながら説明できるようになりたい。」など、	